

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3372700587		
法人名	株式会社 サンヨウ		
事業所名	グループホーム こもれびの家(南ユニット)		
所在地	岡山県浅口郡里庄町大字新庄2790-7		
自己評価作成日	平成22年2月2日	評価結果市町村受理日	

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利法人 ライフサポート		
所在地	岡山県岡山市南型2丁目13-1		
訪問調査日	2010年2月18日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・利用者個々の状態を把握し、その方のペースに合わせて生活してもらっている。買い物や外出に行った時は欲しいものをゆっくり選べるようゆったりと時間とっている。意見交換ノートを活用したり、空いた時間などスタッフ同士話し合い、たくさん意見のでる環境である。年に何回か小旅行を企画し動物園や水族館など日頃行けない所に行くことで、いつもと違う利用者の表情が見れている。ウッドデッキを活用し家族の方も参加して頂きバーベキューやそうめん流しを行っている。利用者によっては、本人、その家族、職員で夕食などに行き家族の方とも関わる時間を大切に、信頼関係を築いている。その時に情報交換や思いもきいている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)	
---------------------------------	--

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当するものに印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Alt+)- + (Enter+)-です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ユニット会議で理念に基づいた年度目標や短期目標を立てている。		
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	外出、買い物の機会を出来るだけ作り、地域との交流を増やしている。毎年、地域の秋祭りに参加している		
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の研修会へ参加してはGHの事例発表を行い勉強会を開催した。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	サービスの報告や日常風景をDVDに撮って上映するものの、意見交換が少なかったので今後は会議を増やしていく予定		
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	現在は運営推進会議位の交流しかないので今後、情報交換などしていく場を増やしていきたい		
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	利用者の行動を阻止せず声を掛け、意思を尊重し、側に寄り添い危険がないよう見守っている		
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待が起こらないよう職員が話し合いストレスを溜めないようにしている。職員が利用者に傷付けるような暴言があれば他職員が論ずるよう心掛けている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度が必要なケースがあり、担当者が対応を行うので、全スタッフが理解しておらず、対応が出来てないので勉強会をしていきたい		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約は、ゆっくり時間をとり行っており、質問や医療連携等にも、家族と相談し、同意を得て行っている		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ケアプランや面会時には、現状や今行っているサービスの報告を行い、意見は求めているがどの家族も「今のサービスに満足」の答え多く不満等、なかなか聞けていない		
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ユニット会議、リーダー会議は月に一回行っており、意見を出し合い前向きに取り組んでいる		
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	仕事中にも気分転換できる休憩室を作った。また互助会での外食会や旅行も行っている。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修はなるべく多く参加できる様、研修ファイルや表を作り参加している。研修後は各自研修報告書を書き、ファイルに閉じ、職員全員目を通して		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	全国グループホーム大会へ参加し、事例発表を行い、他のグループホームとも交流を図った。他の事業所の行事、祭りなどにも積極的に参加している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前には必ず事前訪問を行い、心身の状況の把握や、本人さんと話をさせて頂き本人に受け入れて頂ける様な関係作りに努めます		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	これまでの家族の方の思いを受け止め、当グループホームで出来る対応を伝え話し合っている		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	グループホームだけの対応のみだけでなく、小規模サービスへの説明や提案も行っている		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者がしてくれること、職員がする事にお互い感謝をし言葉に出している		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	月に一回の家族通信や面会時の意見交換を行っている。また良い関係が途切れないよう、施設内での行事には参加してもらえよう連絡している		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの場所にドライブや買い物に出かけている。利用者によっては、友人への交流が途切れないよう電話やハガキをだしている		
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	家事などスタッフも一緒に行い、利用者一人ずつ役割をもってもらい生活をして頂いている。利用者同士、お互い手伝いし合い、協力しあって過ごしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他事業所へ移られる場合の情報提供は行うも、その後の関わりは持っていない		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で、言葉や表情の内から本人の思いを感じ取っている。面会時など家族とも情報交換している		
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に家族にお願いしバックグラウンド用紙に記入をお願いしている。入居者が日々の暮らしの中で発した昔の経験談などは記録に残しスタッフ全員で共有しサービスに活かせるよう努めている		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者一人一人の行動、発言など理解し、その方全体の把握に努め、その方の生活リズムに合わせるよう努めている		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月に一回ユニット会議を行っており、職員の意見交換を行い、本人や家族の意見も聞きケアプラン作りに活かしている		
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別ファイルを作り、食事量、排泄等、身体的状況及び、日々の暮らしの様子や本人の言葉、エピソードなど記録とし残している。勤務の開始前の確認は義務付けている		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人、家族の状況に応じて通院や送迎等の支援は行っている。家族会などで食事の声掛けも行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	消防署の方の協力を得て一年に一回は消化器の実践訓練を行っている。また民生委員の方とは二ヶ月に一回に運営推進会議で意見交換を少している		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者、家族が希望するかかりつけ医にしている。受診、通院は出来る限り家族で同行して頂き、どうしても無理な場合はスタッフが同行している。頻繁に往診などでDrが来てくれるので情報交換がしやすい		
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	各ユニット一名づつ看護師を配置しており、何があってもすぐ対応出来るようにしている。月に一回ナース同士の会議をしており情報を共有しあっている		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は本人へのケア方法等を含む情報を医療機関に提出すると共に、家族とも回復状況等の情報交換しているが、三者一体となって退院計画を立案していく体制は整っていない		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化に伴う意思確認書を作成し、事業所が対応し得る最大のケアについて家族に説明を行っている。本人や家族の意向を踏まえて、医師、職員が連携を取り、安心して納得できる最期を迎えられるように、随時意志を確認しながら取り組んでいる		
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	すべての職員が応急手当の勉強を実施している。緊急時対応マニュアルを作成し周知徹底を図っている。消防署などの研修に参加し、蘇生術の対応が全職員が出来るようにしている		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に職員、入居者と色々な場面を想定し避難訓練を行ったり、マニュアルを作成し、全職員が徹底できるよう努めている。地域の協力体制については運営推進会議等を利用し呼びかけていく事を課題としている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の方が、出来なかったり、失敗をしても、指摘や責めることはせず、不安にさせない声掛けや対応を行っている。援助が必要な時もすぐに手助けするのではなく、本人の気持ちを尊重し、プライドを傷付けないよう配慮している		
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員の意見を押しつけず、利用者のしたい事、食べたい物など聞いている。意思表示が困難な方に対しては、答えやすい質問にしたり、表情や反応を見逃さないよう注意している		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	出来る事や、得意なことは手伝って頂いている。しかし気分が乗らない時には、無理には頼まず本人のペースに合わせている		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎日本人が着る服を決めており、服の着ている順番が違う時は、本人の意志を聞き、一緒に直している		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	出来る方については、調理、盛り付け、片付け等、利用者と一緒にいき、コミュニケーションを図っている。利用者の好きなメニューを聞いて、一緒に献立を立てたりしている。外の畑に利用者や水あげや、野菜の収穫し料理に使用している		
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量が少ない方は、本人の好きな物を提供したり高カロリーな物を食べて頂いている。また全職員が摂取量を把握出来るように記録している。糖尿病の方は間食を控えるよう声掛けや、スタッフで預かるなどし調整させていただいている		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	義歯の利用者には週二回のポリドント、全介助の方には口腔ケアウェットティッシュで食後は清潔に保っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	定期的なトイレ誘導や声掛けを行っており、全介助の方でも二人介助でトイレに座って頂き、なるべくトイレで排泄してもらえよう努めている		
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄パターンを記録し、おやつ等にバナナやヨーグルトを取り入、水分もこまめに摂取して頂いている。今後運動を増やしていきたい		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	声を掛け本人の意志を尊重し入浴を行っている。利用者の希望に合わせて夜間浴もおこなっている		
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中なるべく活動して頂き、安眠を促している。眠剤を飲んでいる方には、入眠前に話をするなど個々の対応を行っている		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員が利用者の飲んでいる薬を把握出来るように処方箋のコピーをファイルに毎回閉じている。服薬時は手渡しし、飲み込むまで確認している		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食器拭きや掃除機、モップ掛けなど、役割を持って頂き、感謝の気持ちを伝えている。ドライブなど出かけ気分転換して頂いている		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	買物の際はお金を持たれている利用者は好きな物を買ったりしている。外食は家族の参加希望を聞き、出来るだけ家族との外出を増やしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を所持している方と、買い物などに出かけた際は、自分で支払って頂き、社会性の維持につなげている		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者の家族や友人との交流を絶やさない為にも年賀状など出せるように支援している。本人の希望がある時は電話をしている		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	壁に自分で書いた習字や絵を飾ったり、机に花を飾ったりしている		
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	TVの前にソファを置き数人でお茶を飲んだり談話したり、ウッドデッキにも椅子を置いており日光浴など行えるようにしている		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者自身が昔から使っていたタンスなど居室に置き、家族との写真など飾り、落ち着いた環境を提供している。居室でくつろげるようTVも設置している		
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	危険防止への取り組みが過剰にならない様、個々によって福祉用具を検討し、利用者の行動の制御につながらない様ケアしている。また状態が変わった時等は、会議も開き自立支援につなげている		